

平成 18 年 11 月 2 日  
日本銀行盛岡事務所

## 岩 手 県 金 融 経 済 概 況

### 1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、個人消費は盛り上がりには欠ける動きとなっているが、設備投資が大幅に増加しているほか、住宅投資も前年を上回って推移している。

一方、生産はIT・自動車関連分野を中心に増加しており、雇用情勢も改善傾向にある。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、悪天候の影響もあって、盛り上がりには欠ける展開となっている。

#### (大型小売店売上高)

百貨店の売上げは、秋物衣料品が堅調に推移したが、一部の先でセール取止めの動きもあって、前年を下回っている。一方、スーパーの売上げは、10月上旬は悪天候から落ち込んだものの、その後季節商材を中心に持ち直してきており、ほぼ前年並みの動きとなっている。ただ、沿岸地域では、台風級の低気圧の影響から、地区や学校の運動会や催しが中止・延期されたことが響いて、惣菜類を中心に落ち込んでいる。

#### (家電量販店売上高)

家電売上高は、パソコンやDVD等が新機種投入前の買い控えなどから伸び悩んでいるが、薄型テレビやドラム式洗濯機などの販売は好調に推移しており、全体としては底堅い動きを示している。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数(軽自動車を含む)は、軽自動車が新型車投入効果から前年を上回って推移しているが、小型車・普通車の減少が続いていることから、全体では引き続き前年割れの状況となっている。

(観光)

観光客の入込みは、10月上旬が悪天候から落ち込んだが、中旬以降の紅葉シーズン入り後は、関東等からの個人客を中心に堅調に推移しており、宿泊客の客単価も徐々に上昇している。

(2)住宅投資

新設住宅着工戸数は、振れを伴いつつも前年を上回って推移している。

(3)公共投資

公共工事請負額は、件数、金額とも3か月連続して前年を下回っている。

(4)設備投資

9月短観における県内企業の2006年度設備投資計画を見ると、製造業、非製造業とも前年度を大幅に上回る計画となっている。

3.生産動向

生産面では、IT関連や自動車関連分野での高操業を主因に、全体として増加傾向が続いている。

(電子部品類)

電子部品・半導体では、薄型テレビや次世代ゲーム機向けを中心に増産を続けている。

(輸送用機械)

完成車については、海外向け車種を中心に高操業を続けている。自動車部品も、海外・国内の好調な需要を背景に高水準の生産を続けている。

(一般機械)

自動車関連向け産業機械の生産が好調なほか、各種機械部品も高操業を続けている。

(その他)

鉄鋼(線材)は、自動車向けを中心に操業度を高めている。缶詰は健康番組効果から鯖、さんまなどの水産関連を中心に持ち直している。

セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、マンション関連の受注が増加しているが、公共投資が減少基調にあることから、全体としては生産能力を下回る生産が続いている。

#### 4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率は、製造業での生産回復を背景とした求人増加を主因に、上昇基調にある。

一方、雇用者所得は、常用雇用者数が依然前年を下回っているうえ、所定外給与が減少していることもあって、前年割れの状況が続いている。

#### 5. 企業倒産

10月の企業倒産(負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数は8件と6月以来の1桁台に止まったが、10億円を越す大型倒産が4件発生したことから、負債総額は92億8500万円(前年:6億6200万円)に上っている。

#### 6. 金融面の動向

預金動向をみると、公金預金が前年割れとなっているが、個人預金が堅調に推移しているほか、法人預金も持ち直しつつあることから、前年を上回って推移している。

一方、貸出動向をみると、法人向けは、弱めの域を脱していないものの、個人向けが住宅ローンを中心に堅調なほか、地公体向けも財政事情を反映して増加傾向にあることから、全体では前年を上回って推移している。

以 上